

地域における「通いの場」の役割と期待

令和2年度介護予防事業従事者研修会

静岡県立大学 経営情報学部
木村 綾

第一の居場所：家庭

第二の居場所：職場

第三の居場所：サードプレイス

家庭と仕事の領域を超えた 個々人の、定期的で自発的でインフォーマルな、お楽しみの集いのために場を提供する、さまざまな公共の場所の総称

サードプレイス

8つの特徴

中立性、社会的平等性の担保、会話が中心に存在すること、
利便性があること、常連の存在、目立たないこと、
遊び心があること、もうひとつのわが家

3区分

マイプレイス型：個人が時間を気にせず、ゆったりと過ごす場
社交交流型：なじみの常連が社交の場として、賑やかに楽しむ場
目的交流型：地域活動としての目的が存在し、自発的に人々が
集まる場

外出できないことで…

1 不安・閉塞感・ストレス

- ・外出制限による閉塞感
- ・感染リスクに伴う不安
- ・人と対面できないことによる孤立のストレス
- ・話し相手の不在によるストレス

2 行くところがない

- ・行く場所がない、日中過ごす場所がない
- ・やることがない、用事がない、暇を持て余す
- ・一人で抱え続ける辛さ

3 高齢で懸念されること

- ・運動不足による身体機能の衰え
- ・孤立による会話能力の低下、認知症の進行
- ・生活管理、体調管理

外出することで…

1 不安・閉塞感・ストレス

⇨解放感、気晴らし

⇨人・地域・社会とのつながり

⇨人と話すことでストレス発散、安心感

2 行くところがない

⇨自宅以外の自分の居場所

⇨やりたいこと、やれること

⇨周りの人と体験や感情等を共有

3 高齢で懸念されること

⇨身体機能や代謝を維持・増進

⇨口腔機能、認知機能の維持

⇨生活リズム、セルフコントロール、調整力

外出することで…

○情報格差

- ⇔生活に必要な情報の収集
- ⇔サービス利用、QOLの向上
- ⇔被害等の防止

★居場所の効果

- ・自分のことを気にかけてくれる人ができた
- ・一緒に趣味や地域活動をする友人が増えた
- ・近所の人や家族と以前より話すようになった
- ・前向きな気分になれた
- ・一人ではないと感じた

主な課題

- 1) 来てほしい人の参加
- 2) 資金の確保
- 3) スタッフの負担、スタッフの確保
- 4) 地域（他の組織）との連携
- 5) リスク管理
- 6) 会場の確保

- ・ 人材確保、後継者確保
- ・ 近所の人あまり来ないが、少し遠くの元気な方が来る
- ・ 本当に来てほしい一人暮らしの人はなかなか来ない
- ・ 利用者が増えない
- ・ 運営するための経費
- ・ どうしても仲良しクラブのような雰囲気になってしまう
- ・ 居場所などの取組に対して協力はしたいと思うが、責任は持ちたくない

今後への期待

1) ターゲットとコンセプト（目的）

ターゲット：誰に対しての取り組み？

コンセプト：どうなって欲しい？

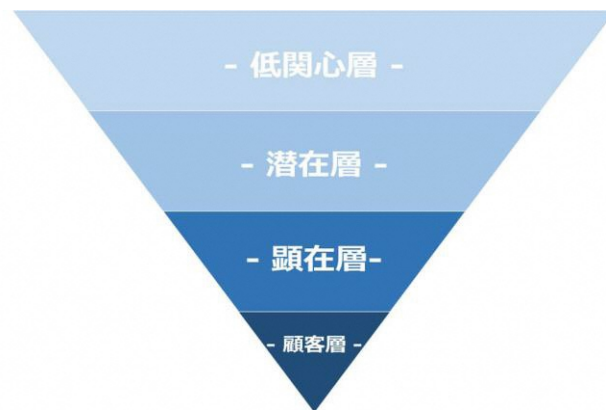
明確にすることで…

⇒訴求力を高める

⇒新たなターゲットの発掘・開拓

★適切な情報発信方法の選択が必要

発信する相手は、
関心がない人？
興味があって検討中？
既に利用していて継続する
検討中？



今後への期待

2) 付加価値、価値創造

機能的価値：そのサービス等で提供できる機能が
どれだけ満足に発揮されているか

感情的価値：サービス等を利用することで生まれる
ポジティブな感情

自己表現的価値：利用する、持つことで自分らしくいられる、
理想的な自分に近づけるとい感情



- ① 差別化を図り、強みを活かせる
- ② 動機付けを高める
- ③ よりターゲットにマッチした活動（サービス）になる

ご清聴ありがとうございました

